

## Activity 7.6 The big data base: automated scoring

■ 商業サービスについてもっと知りたい場合は、オンラインでアクセスできる Dikli (2006) を参照するとよい。

<https://ejournals.bc.edu/ojs/index.php/jtla/article/view/1640>

■ 以下のウェブサイトでは、自動採点に関してどのような主張をしているか?

□ Bayesian Essay Test Scoring sYstem (BETSY) <http://echo.edres.org:8080/betsy/>

- ・ 繰り返し指導できる
- ・ 一般的なフォーマットのデータベースを使用
- ・ 画面とファイルに結果を出力
- ・ ウェブで利用可能
- ・ 診断情報の提供
- ・ 5つのカテゴリまで使用可能
- ・ 教育目的で使用する限り無料

□ Criterion <http://www.ets.org/criterion>

- ・ 生徒: 自分のペースでライティングの練習ができる、すぐにフィードバックがもらって作文を修正できる
- ・ 教師: 仕事量を軽減して作文の内容に集中できる、より高レベルのライティング技能を指導できる
- ・ 教育管理者: データに基づく決定が可能、ライティングの成績を容易にモニターできる
  - ✓ 州の基準に沿っている
  - ✓ 生徒集団が互いの作文につけられたコメントを確認できる
  - ✓ 教師のコメントや教師と生徒の対話ボックスがついている
  - ✓ ライブラリから何百ものトピックを利用できる
  - ✓ インターネット環境があればいつでもどこでもログインできる
  - ✓ iPad など様々な機器で利用できる

□ Intellimetric <http://www.vantagelearning.com/products/intellimetric/>

- ・ 何度でも作文を書くことができ、すぐに詳細なフィードバックがもらえる
- ・ 作文の採点にかかるコストと時間を劇的に減らすことができる
  - ✓ 正確さ、一貫性、人間の専門家より大きな信頼性
  - ✓ オンラインのツールなのでいつでもどこでもアクセス可能
  - ✓ 解答の長さに関係なく採点可能
  - ✓ 包括的評価と分析的評価の両方が可能
  - ✓ 20以上の言語で採点可能
  - ✓ 以下のような不適切な点を検知可能
    - トピックから外れている部分、タスクが求める解答から外れている部分、統語面の不適切さ、質問の繰り返し、害意のあるメッセージ

■ インターネットにおける“automated essay scoring”の検索結果の例

□ Dikli, S. (2006). An overview of Automated Scoring of Essays. *The Journal of Technology, Learning, and Assessment*, 5. Retrieved from <https://ejournals.bc.edu/ojs/index.php/jtla/article/view/1640>.

- ・ Project Essay Grader, Intelligent Essay Assessor, E-rater and Criterion, IntelliMetric and MY Access, Bayesian Essay Test Scoring System など、広く使用されている自動採点システムの特色も説明されている

□ 森リン: 作文・小論文の自動採点ソフト <http://www.mori7.info/moririn/moririn1200.php>

- ・ 日本で初めて実用化された文章解析ソフト
- ・ 文章の面白さと相関の高い素材語彙、内容の深さと相関の高い重量語彙、思考力と相関の高い強力語彙などを抽出・数値化する

### Activity 7.8 Designing a rating scale

■ 会話上級クラスの到達度を評価する、次のスピーキングタスクの採点に適した評価尺度はどのようなものか? また具体的な記述子の例としてはどのようなものがあるか?

「時折、あるものがその年のテーマになることがある (e.g., 子どもや情報技術の国際年)。もし将来の国際年のテーマを選ぶことができるとしたら、以下のうちどのテーマを選びますか? またその理由はなぜですか?」

→ 野生生物、気候変動、飢餓の救済、女性、スポーツ、健康

■ 今回の目的は授業の到達度、つまり生徒がどれほど授業目標に近づけたかを評価することである。この場合、複数の授業目標を観点として、**multiple choice scoring** を行うのが適していると考えられる。

→ 教師は生徒の到達度を詳細に評価することができる。

→ 診断的な評価は、生徒にとっても有益なフィードバックとなる。

(ex.) 例題の記述子の一例 (その授業が重視する能力によっては、評価の観点が変わることもありうる)

- ・ 内容面: テーマ選定の理由として挙げたものは、説得力のあるものか?
- ・ 形式面: 自分の意見やそれを支持する理由を、論理的に展開できるか?
- ・ 流暢さ: 語彙、文法、発音などの間違いなく、自分の考えを流暢に説明できるか?